

P1-013

保育者養成大学学生の基礎体温計測行動と健康関連指標との関連

細井 香¹、本田 由佳²

¹東京家政大学 子ども学部 子ども支援学科、
²慶應義塾大学SFC研究所

【目的】

保育者の労働環境に関しては、様々な警鐘がなされており、労働環境の改善が叫ばれている。保育の質の向上という視点から見ても、良い保育をするためには、保育者自身が自らの健康意識を高め、正しく健康管理をしていくことは重要である。しかし保育者養成カリキュラムには、子どもの健康管理に関する学習はなされても、保育者自身の健康管理については学習する機会が少ない。また保育者自身の健康管理に関しては、健康関連科目で触れることはあっても、きちんとした健康教育プログラムの位置づけとしてはなされていないのが現状である。

健康管理の指標の一つに、基礎体温の計測があげられる。本研究では、学生への健康教育の一環として、7か月の期間における基礎体温の測定を実施した。しかし計測行動には、自らの健康への意識や関心、計測の必要性の認識などがなければ継続は期待できない。保育者となる学生が、保育者になった後も、自らの健康管理を自主的に意識し実行できるよう導くためにも、基礎体温測定の継続行動と健康意識との関連を明らかにしておくことは必要と考える。本研究結果を、今後の健康教育プログラム作成に役立てたい。

【方法】

対象：K大学の1年生110名

調査時期：2015年5月1日より11月30日まで

調査データ：オムロンヘルスケア（株）の婦人用電子体温計計測データ、カラダ日和2015による生活習慣アンケート結果、計測事前事後質問紙調査より

【結果および考察】

*詳細データは、当日発表。

本調査の結果、平均体温 $36.4^{\circ}\text{C} \pm 0.2$ 、継続日数平均180.1日（最大245日、最少30日）であった。計測行動の継続に関して平均値で2分割し、各健康指標との関連を調べた。t検定の結果、継続行動と関連のあった項目は、間食、夕食から就寝までの時間、外食、清涼飲料水、ファーストフード、飲酒、子どもの頃の肥満度、ダイエット経験、常用薬、頭痛症状等であった。そのうち継続日数が平均値より低いグループでは、「間食」「外食」「清涼飲料水」「ファーストフード」をとることが多く、継続日数が平均値より高いグループでは「肥満度」「ダイエット経験」等が高い傾向にあった。基礎体温計測と日常生活習慣、生活行動との関連が示唆された。

*本研究は、三菱総合研究所が受託している総務省のICT健康実証事業の中で、実施されたものである。オムロンヘルスケアの協力ならびに同事業で運用中のカラダ日和2015の機能を使用している。

P1-014

養育者の仕上げ磨き行動とかかりつけ歯科医の有無および自治体の乳幼児歯科保健対策の状況との関連 —健やか親子21追加調査データから—

篠原 亮次¹、秋山 有佳²、市川 香織³、玉腰 浩司⁴、
尾島 俊之⁵、松浦 賢長⁶、山崎 嘉久⁷、山縣 然太郎^{1,2}

¹山梨大学大学院 総合研究部 出生コホート研究センター、

²山梨大学大学院 総合研究部 社会医学講座、

³文京学院大学 保健医療学部 看護学科、

⁴名古屋大学 医学部 保健学科 看護学専攻、

⁵浜松医科大学 医学部 健康社会医学講座、

⁶福岡県立大学 看護学部 ヘルスプロモーション看護学系、

⁷あいち小児保健医療総合センター

【背景】

乳幼児期からの歯磨き習慣と養育者による仕上げ磨きは、後の齲歯の発症予防に重要である。しかし、適切な口腔ケア方法の習得や齲歯予防には、かかりつけ歯科医による指導や定期健診が欠かせない。加えて、自治体による乳幼児歯科保健対策の充実も重要となる。

【目的】

養育者の仕上げ磨き行動とかかりつけ歯科医の有無および自治体の乳幼児歯科保健対策の状況との関連について検討する。

【方法】

対象は「健やか親子21（第2次）」のための追加調査実施対象となった全国471市区町村において、平成26年7月から9月の間に3歳児健診を受診し、調査票の回答が得られた児の保護者21,044名である。調査方法は、各市区町村から自記式質問票による調査を保護者に依頼し、それらを健診時に回収した。分析方法は、養育者の「仕上げ磨き」実施の有無を第1の目的変数、「かかりつけ歯科医」の有無を第2の目的変数、「健やか親子21」の最終評価（平成25年度）において全国の自治体に実施された、健やか親子21の推進状況に関する実態調査における項目「乳幼児期のむし歯予防対策」の各市区町村の取組状況を説明変数、母子の属性などを調整変数とし、都道府県でネストしたマルチレベル・ロジスティック回帰分析を実施した。

【結果】

分析対象は、欠損データを除く18,623人であった。「仕上げ磨き」は、あり86.4%、「かかりつけ歯科医」は、あり43.1%であった。また、自治体による「乳幼児のむし歯予防対策」の状況は、充実したと回答した市区町村に属する養育者は65.6%、不変34.0%、縮小・未実施0.4%であった。「仕上げ磨き」を目的変数とした多変量分析では、「かかりつけ歯科医師」がない場合に比較して、ある場合がオッズ比1.2であった。一方、「かかりつけ歯科医」の有無を目的変数とした場合、「乳幼児期のむし歯予防対策」が縮小・未実施に比較して、不変がオッズ比2.0、充実が2.0と有意な関連を示した。

【考察】

市区町村の乳幼児のむし歯対策の充実は「かかりつけ歯科医」の存在と関連を示し、また「かかりつけ歯科医」は「仕上げ磨き」との関連を示したことから、「仕上げ磨き」の行動と「かかりつけ歯科医」は直接的関係がみられ、市区町村の乳幼児のむし歯対策の充実は「かかりつけ歯科医」を通して間接的に「仕上げ磨き」の行動と関連している可能性がある。今後、乳幼児のむし歯対策が充実したとする取り組みの詳細を検討する必要がある。